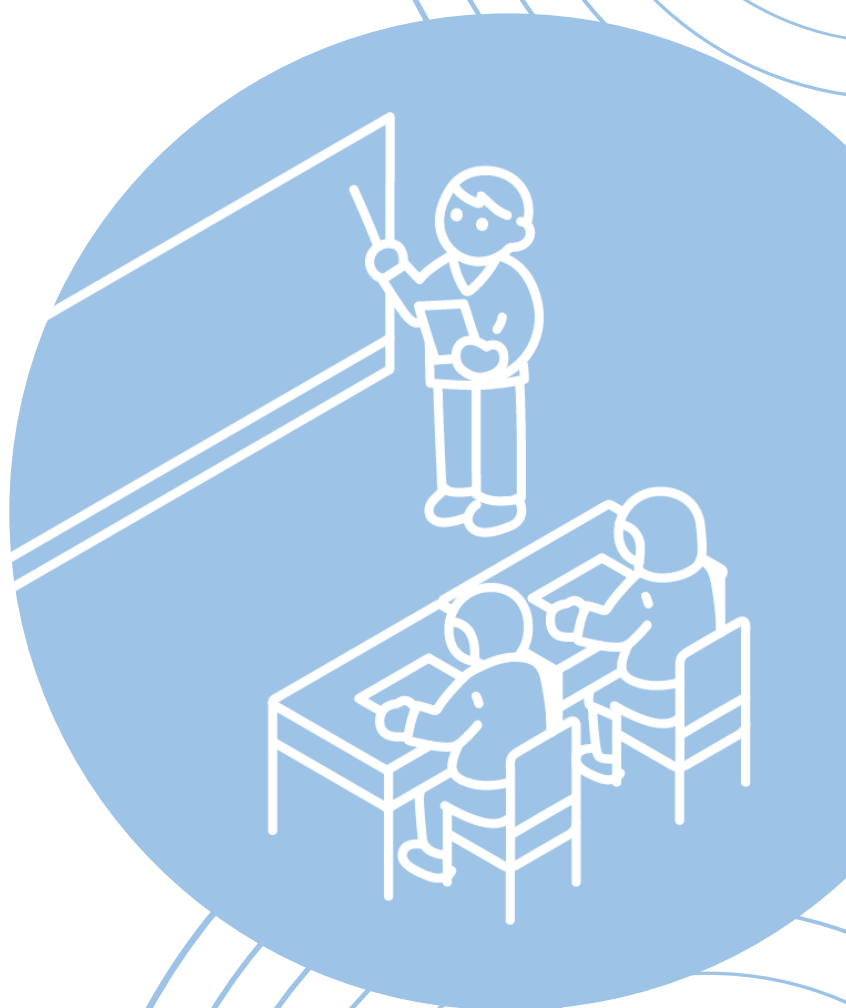


令和8年度

全国学力・学習状況 調査結果の概要



角田市教育委員会

1 調査結果の概要

今年度実施しました『全国学力・学習状況調査』の結果についてお知らせいたします。調査対象は、小学校6年生と中学校3年生です。角田市教育委員会といたしましては、各学校と情報を共有しながら、児童生徒一人一人の学習状況に応じた学習指導の改善・充実に取り組んでいきたいと考えております。今回、お知らせする結果については、市内の小・中学校の学習状況の傾向を示しております。地域や保護者の皆様の深いご理解と温かなご協力の程よろしくお願いいたします。

(1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日 令和8年4月23日（木）

（英語については、令和8年4月20日（月）から同月23日（木）の間の
文部科学省が指定する日）

(3) 調査対象 小学校6年生 5校151人 中学校3年生 2校186人

(4) 調査内容

- ① 教科に関する調査 <小>国語、算数 <中>国語、数学、英語（CBTにより実施）
- ② 児童生徒質問紙調査 学習意欲、学習・生活習慣、規範意識、自己有用感等

(5) その他

本調査は、市内小・中学校の傾向を示していますが、結果については、様々な学力の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。

(6) 教科に関する調査結果 （宮城県の数値は仙台市を含む調査結果です）

① 小学校における平均正答率比較 [%]

	角田市	宮城県	全国
国語	55	58	60.9
算数	53	54	56.4

② 中学校における平均正答率比較（英語は平均 IRT スコア） [%]

	角田市	宮城県	全国
国語	61	64	63.9
数学	50	55	57.0
英語	458	489	499

2 教科に関する調査結果の分析と考察



下記は、角田市内の小学校6年生、中学校3年生の全国学力・学習状況調査における『平均正答率（全体と観点別）』と『正答数分布状況のグラフ』です。これらの結果を分析し、考察しております。

正答数分布状況のグラフについては、縦軸が人数の割合(%)、横軸が正答数を表しており、市内の児童・生徒の人数の割合は棒グラフで表記してあります。比較のために全国の割合を折れ線グラフ（全国→◆、県→▲）として示してあります。

『考察』については、平均正答率における全国との比較や、グラフを基にした正答者数分布状況、そして、『問題別解答類型』の誤答分析から明らかとなった児童・生徒のつまづきポイント、今後の指導の重点について記載しました。

なお、中学校英語については、CBTによる実施のため、「平均IRTスコア」と「IRTバンド分布グラフ」による記載となっています。

（※『問題別解答類型』については、膨大な資料のため掲載を割愛しています。）

（１）小学校 国語

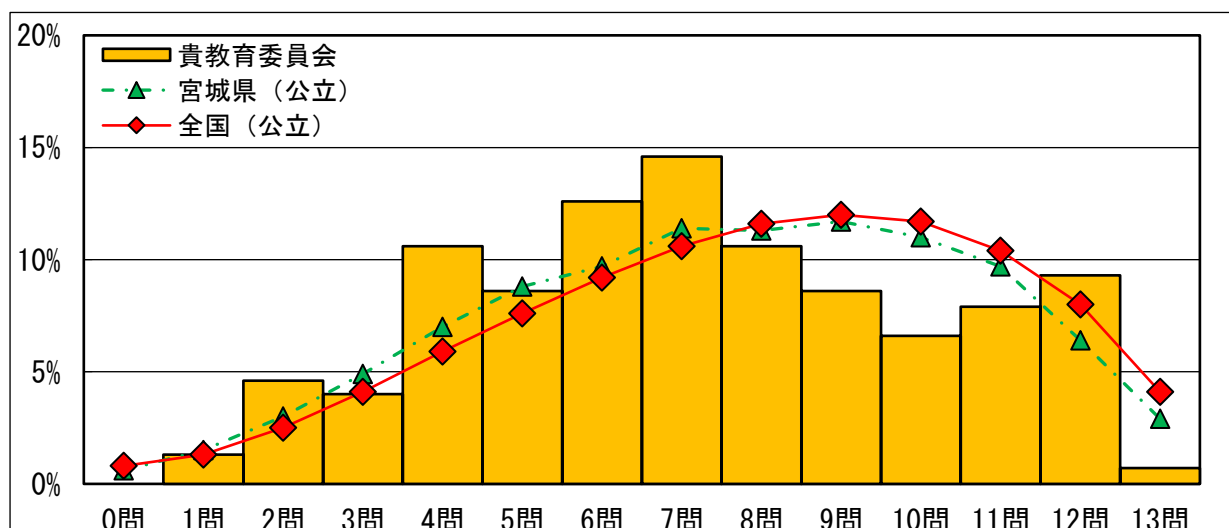
〔%〕

項目 教科	全体			知識・技能			思考・判断・表現		
	角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国
国語	55	58	60.9	54.1	58.1	62.0	56.7	58.7	60.1

考察

全体の平均正答率は、全国を5.9ポイント下回りました。観点別の平均正答率では、「知識・技能」が、全国の平均正答率を7.9ポイント下回りました。また、正答数分布状況のグラフ（下記）からは、7問の正答者の割合が多く見られました。さらに、問題別の誤答分析によれば、「情報の扱い方に関する事項」に関する選択式の問題において、全国の平均正答率とかなり離れている状況が見られました。今後、情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方などの指導を工夫していきます。

【正答数分布状況】 ※設問数13問



(2) 小学校 算数

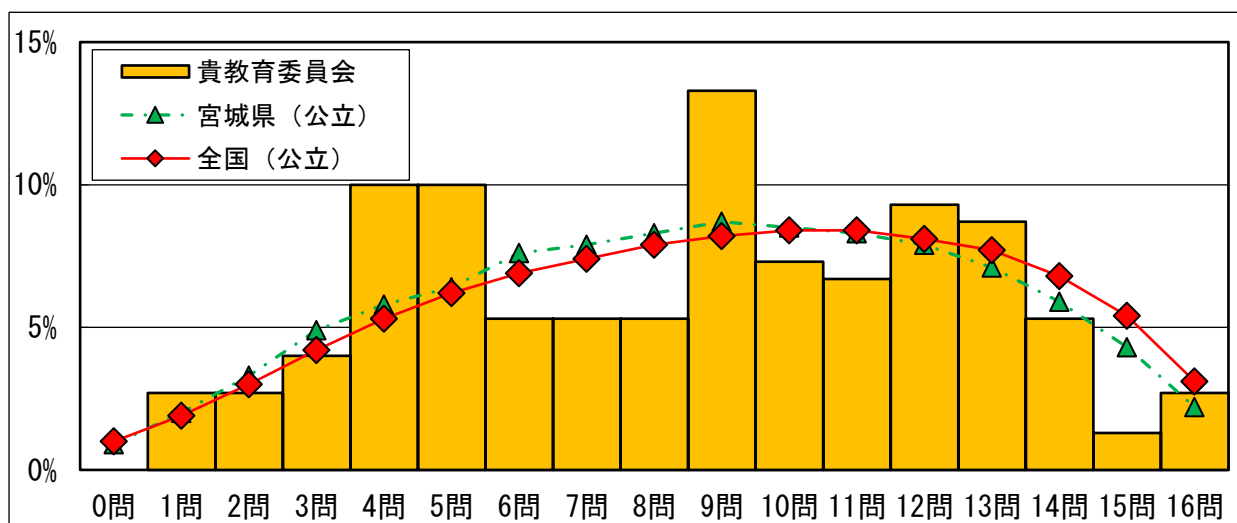
〔%〕

項目 教科	全体			知識・技能			思考・判断・表現		
	角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国
算数	53	54	56.4	56.6	58.1	60.1	42.8	42.9	45.4

考察

全体の平均正答率は、全国を3.4ポイント下回りました。観点別の平均正答率では、「知識・技能」が全国を3.5ポイント以上、下回りました。また、正答数分布状況のグラフ（下記）からは、4問、5問、9問、12問の正答者が多く、学力の二極化の現象が見られました。さらに、問題別の誤答分析によれば、「図形」「測定」に関する問題の平均正答率が、5ポイント以上下回りました。特に、「直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる問題」が、全国を10ポイント以上、下回りました（※下記参照）。今後、図形に関わる数学的活動を通して、基礎的・基本的な事項の定着が図れるよう指導を工夫していきます。

【正答数分布状況】 ※設問数16問



【小学校の算数で正答率が県・全国を大きく下回った問題】

(2) 図1のような直方体の箱があります。

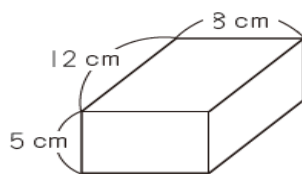


図1

【正答】

5 (cm)、12 (cm)

示された四つの長方形の辺の長さを基に、残りの長方形の縦と横のそれぞれの長さを見出すことができる。

※誤答の例としては、示された四つの長方形の辺の長さを基に、残りの長方形の縦と横のそれぞれの長さを5 cm、8 cm もしくは8 cm、12 cm と解答している。

図1の箱には6つの面があり、下の長方形はそのうちの4つの面です。

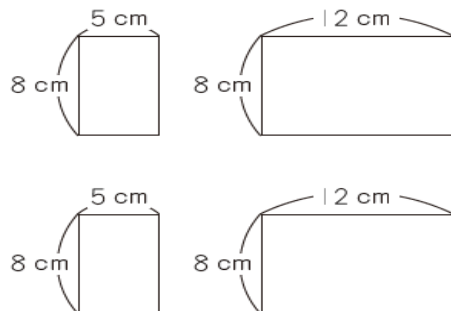


図1の箱には、上の4つの面のほかに、形も大きさも同じ2つの長方形の面があります。その長方形の縦と横のそれぞれの長さを書きましょう。

(3) 中学校 国語

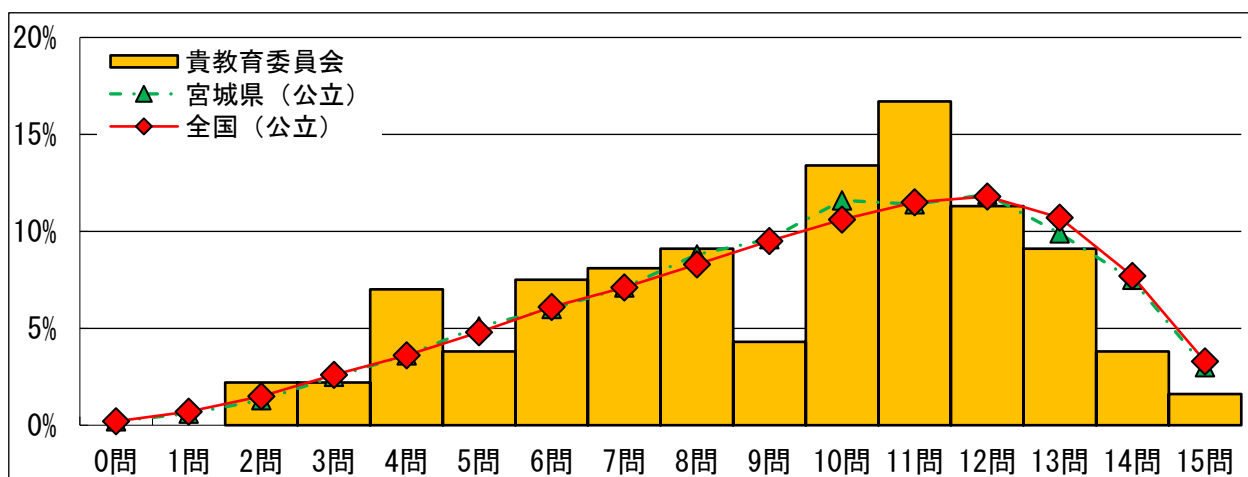
〔%〕

項目 教科	全体			知識・技能			思考・判断・表現		
	角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国
国語	61	64	63.9	60.8	63.3	64.2	61.6	63.9	63.7

考察

全体の平均正答率は、全国を2.9ポイント下回りました。観点別の平均正答率は、「知識・技能」で、全国を3.4ポイント、「思考・判断・表現」では、全国を2.1ポイントそれぞれ下回りました。また、正答数分布状況のグラフ（下記）からは、11問の正答者の割合が多く見られました。さらに、問題別の誤答分析によれば、「書くこと」の内容において、「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見い出すことができるか」を問う問題で、全国とのかい離が大きく見られました。今後、表現の工夫とその効果について、書く活動に生かす具体的な視点をもてるよう指導を工夫していきます。

【正答数分布状況】 ※設問数 15問



(4) 中学校 数学

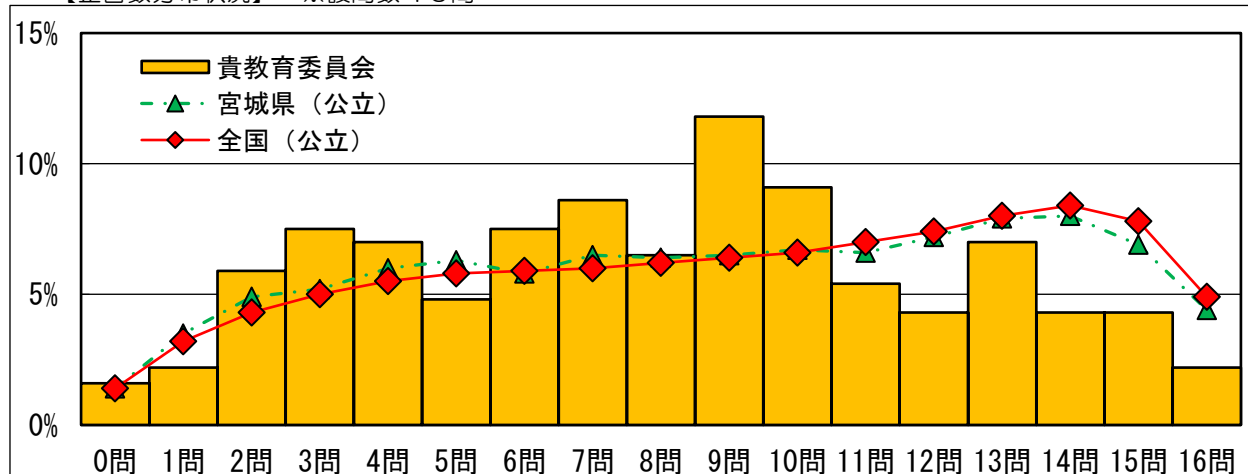
〔%〕

項目 教科	全体			知識・技能			思考・判断・表現		
	角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国
数学	50	55	57.0	57.7	61.7	63.0	28.1	36.7	39.1

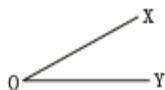
考察

全体の平均正答率は、全国を7.0ポイント下回りました。観点別の平均正答率では、「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれも、全国を5ポイント以上下回りました。また、正答数分布状況のグラフ（下記）からは、9問と10問の正答者の割合が多く見られました。さらに、問題別の誤答分析によれば、「三角形の合同を基にして、筋道を立てて考え、証明する問題の正答率に、全国とのかい離が大きく見られました（※下記参照）。今後、数学的活動を通して、図形の基本的性質などを具体的場面で活用する指導を工夫していきます。

【正答数分布状況】 ※設問数 16問



- 8 下の手順で、鋭角である $\angle XOY$ の2倍の大きさの角が作図できます。

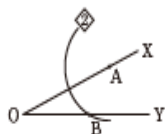


手順

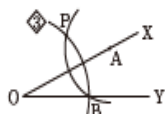
- ① 辺OX上に適当な点A、辺OY上に適当な点Bをとる。



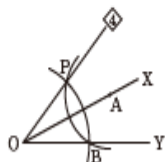
- ② 点Aを中心として半径ABの円をかく。



- ③ 点Oを中心として半径OBの円をかき、②の円との交点をPとする。



- ④ 直線OPをひく。



上の手順で作図した $\angle POB$ は、 $\angle XOY$ の2倍の大きさになります。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 手順の④の図において、 $\angle AOB$ の大きさが a° のとき、 $\angle POB$ の大きさを a を用いて表しなさい。

- (2) 前ページの手順で作図した $\angle POB$ が $\angle XOY$ の2倍の大きさであることを、つまり $\angle AOB = \angle AOP$ であることを証明します。図1は、手順の④の図の点Aと点B、点Aと点Pを結んだ図です。図1において、 $AB = AP$ 、 $OB = OP$ は手順から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

図1

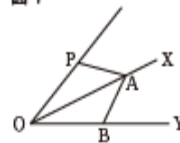
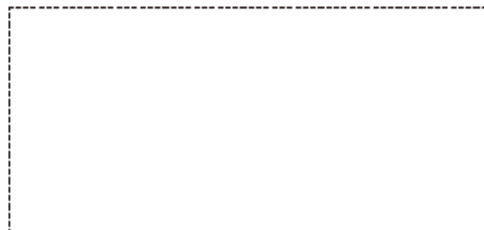


図1において、
 $AB = AP$ 、 $OB = OP$ ならば $\angle AOB = \angle AOP$ である。

上のことがらが成り立つことは、 $\triangle AOB \cong \triangle AOP$ を示すことで証明できます。下の証明を完成しなさい。

証明

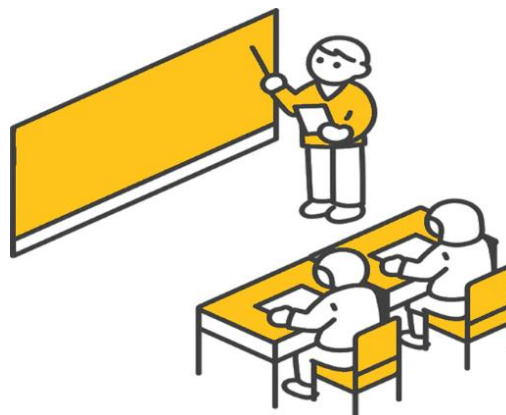
$\triangle AOB$ と $\triangle AOP$ において、



合同な図形の対応する角は等しいから、
 $\angle AOB = \angle AOP$

【正答例】⑧(2)

- ・ 仮定より、 $AB = AP$ $\dots\dots$ ①
- $OB = OP$ $\dots\dots$ ②
- 共通の辺だから、
 $OA = OA$ $\dots\dots$ ③
- ①、②、③より、3組の辺がそれぞれ等しいから、
 $\triangle AOB \cong \triangle AOP$



(5) 中学校 英語

(英語は平均 IRT スコア)

	平均 IRT スコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
角田市	458	95.4	340	398	450	506	586
宮城県	489	112.4	357	411	482	560	631
全 国	499	113.7	364	419	494	571	641

考察

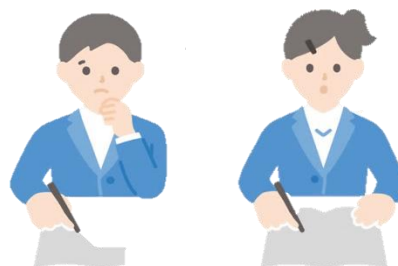
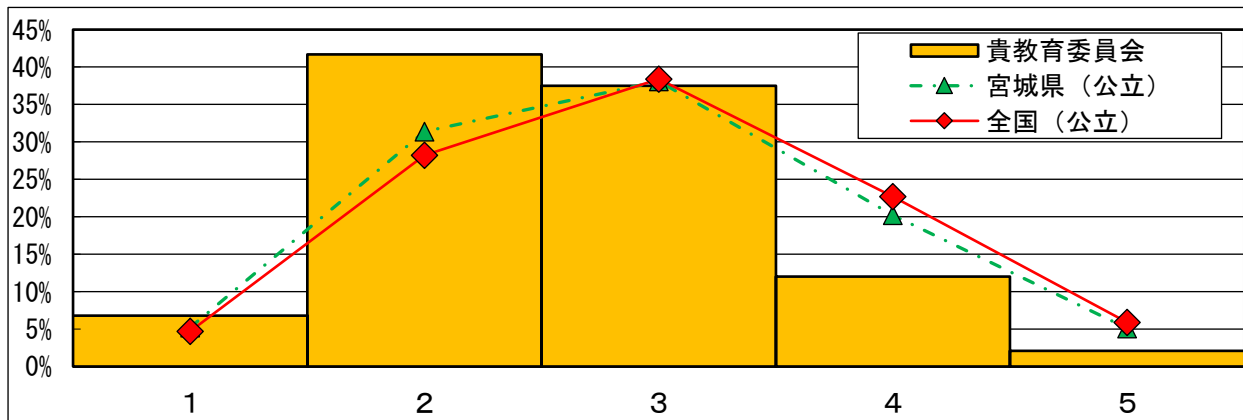
一人一台端末を利用したオンラインにより調査が実施され、調査結果は、IRT（項目反応理論）に基づき示されています。主な用語の説明は以下のとおりです。

- ・IRT（項目反応理論）：児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。
- ・IRT スコア：IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。
- ・IRT バンド：IRT スコアを1～5の5段階で区切ったもの。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。

（全国的な学力調査に関する専門家会議、全国的な学力調査の CBT 化検討ワーキンググループ 合同会議(R7.7.14) 資料より）

平均 IRT スコアは458で、基準となる500を下回りました。IRT バンドの分布では、基準となる3の割合は全国とほぼ同等ですが、2の割合が高く、4、5の割合が低い結果でした。生徒個々のつまずきを把握して AI ドリルの活用も図りながらつまずきの解消を図っていきます。

IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）



3 児童生徒質問紙調査結果の概要

(1) 児童生徒質問紙調査結果の概要

※枠内の数字は回答した児童・生徒の割合<上位2段階の肯定的な回答を集約した割合>
太文字下線部の箇所は、県平均（仙台市を含む）、全国平均を共に上回った項目

① 基本的な生活習慣・人間関係について

〔%〕

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国
1	朝食を毎日食べていますか	94.0	94.2	93.7	<u>94.4</u>	91.4	90.9
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	<u>87.4</u>	84.2	82.8	80.0	83.5	80.5
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	<u>94.0</u>	91.1	90.7	<u>95.9</u>	93.5	92.4
4	友達関係に満足していますか	91.0	89.9	91.1	87.2	90.7	91.2
5	困りごとや不安のある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	62.2	71.2	70.6	71.8	71.8	71.9

考察

基本的な生活習慣に関する質問では、全国と同等もしくは上回る結果でした。
友だち関係で満足している割合が中学校で、困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できる割合が小学校で全国平均を下回っており、児童生徒が互いに理解し合える環境づくりと、相談しやすい環境・雰囲気づくりに努めていく必要があります。

② 志教育、自己肯定感等について

〔%〕

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国
1	自分には、よいところがあると思いますか	79.7	84.9	85.6	83.1	83.3	84.0
2	将来の夢や目標を持っていますか	80.9	80.6	81.8	<u>75.4</u>	68.0	67.6
3	人が困っているときは、進んで助けていますか	<u>94.6</u>	90.9	92.7	87.7	88.3	90.8
4	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	<u>97.6</u>	95.8	96.2	93.8	94.7	95.1
5	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	<u>98.2</u>	95.3	95.8	94.4	95.8	95.9
6	普通の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	86.8	91.7	92.5	<u>92.3</u>	90.4	91.0
7	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	<u>80.8</u>	79.5	80.1	70.3	71.8	72.3

考察

「自分には、よいところがある」と回答する割合が小学校で全国平均を5ポイント以上下回りましたが、社会貢献や地域貢献に関する質問についての肯定的回答は全国を上回っています。中学校では「将来の夢や目標を持っていますか」の質問で、中学校で上回り、志教育の成果の表れと考えています。
今後も、社会貢献や地域貢献に資する学習機会を充実させ、自己肯定感や自己有用感、幸福感を高めるための教育活動の工夫をより一層進めていくことが大切です。

③ 家庭での学習・生活について

〔%〕

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国
1	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※小学校 1 時間以上、中学校 2 時間以上	<u>50.3</u>	47.2	49.9	18.5	23.4	30.1
2	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※小学校 1 時間以上、中学校 2 時間以上	<u>45.5</u>	38.2	39.0	22.1	27.8	29.9
3	学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間 PC、タブレットなどの ICT 機器を勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）※小・中共に 1 時間以上	12.0	13.6	13.4	11.3	12.6	12.0
4	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書籍の読書を含む）※小・中共に 1 時間以上	9.0	11.0	11.9	5.7	7.3	7.9
5	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）※小・中共に 25 冊以下	49.1	37.1	33.8	46.6	39.5	36.7

考察

小学校では、昨年度家庭学習時間の短い傾向に改善が見られ、今年度も平日、休日ともに全国平均を上回りました。

一方で、ICT 機器を活用した家庭学習の時間については、昨年度、小学校で全国平均を上回りましたが、今年度は全国平均を下回りました。

読書時間に関しては、小・中学校とともに全国平均を下回っており、家庭の蔵書数においても全国平均を下回りました。

④ 学校での学習・生活について

〔%〕

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		角田市	宮城県	全国	角田市	宮城県	全国
1	学校に行くのは楽しいと思いますか	84.4	86.1	85.7	82.6	85.7	85.4
2	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	<u>79.6</u>	76.8	77.9	77.5	77.8	78.6
3	授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしていますか	79.6	83.0	80.8	<u>79.5</u>	79.3	78.0
4	国語の授業の内容はよく分かりますか	81.4	82.4	81.5	<u>79.4</u>	76.8	76.8
5	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	<u>79.6</u>	74.6	77.5	<u>81.6</u>	73.1	74.2
6	英語の勉強は好きですか（小学校）授業の内容はよく分かりますか（中学校）	59.2	64.0	66.7	56.4	61.0	64.2

考察

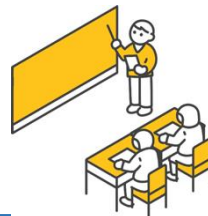
「学校に行くのは楽しいと思うか」の項目では、小・中学校共に全国平均をやや下回りました。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」の項目で、小学校で全国平均を上回り、子ども同士の話し合いや意見交流を取り入れた授業改善の成果が表れてきていると捉えます。

国語や算数・数学、英語において「授業内容がよく分かる」の項目では、小学校では算数で、中学校では国語と数学で全国平均を上回りました。

今後も、「学ぶことの楽しさ」を実感できるよう授業改善に努め、引き続き「楽しくて分かる授業」の実現を図っていきます。

4 角田市教育委員会の取組



角田市学力向上推進委員会を組織し、小・中学校が連携して授業改善をはじめとする方策に組織的に取り組みます。

- (1) 学校と教育委員会の担当で組織する「角田市学力向上推進委員会」で、児童生徒の実態等についての情報共有を行い、具体的な学力向上に向けた方策に取り組みます。また、中学校区ごとに9年間を見通した取組について協議し、学習指導における小・中の連携を強化します。
- (2) 宮城県教育委員会指定事業「学力向上マネジメント支援事業」「共に学ぶ教育推進モデル事業」に取り組んだ成果を生かし、各種研修や授業改善・授業実践に取り組みます。

標準学力調査を実施します。

小1～中2を対象とした標準学力調査を実施し、本市児童生徒個々の学力・生活習慣等の現状と課題を明らかにした上で、授業改善や学び直しの実施などの対策を講じます。

大学等と連携し、校内研修の講師を派遣するなどの支援を行います。

宮城教育大学（平成24年2月連携協力に関する覚書を締結）をはじめとする教育機関・民間企業などから専門家を招へいし、専門的かつ先進的な指導を受けながら実践的な研究授業を行い、教員の授業力や指導力の向上を図ります。

ICTの効果的な活用を図り、児童生徒一人ひとりに個別最適な学び・楽しい学びの実現を目指します。

- (1) 児童生徒一人ひとりに配布したタブレット端末（Chromebook）を、授業だけでなく、家庭学習等にも活用します。
- (2) 昨年度導入したAIドリルの効果的な活用を図り、児童生徒が主体的に学び直しや個々に応じた学習ができるよう支援します。

学校図書館支援員・特別支援教育支援員を配置し、学校及び児童生徒をサポートします。

- (1) 学校図書館支援員の配置（令和8年度は2名）により、学校図書館利用の促進や学校図書館の整備に努め、読書に親しむ環境を整えます。
- (2) 児童生徒一人ひとりのニーズに合った教育活動の支援のために、各学校に特別支援教育支援員を配置（令和8年度は33名）し、個に応じた指導の充実に努めます。

積極的に情報を公表し、学校・家庭・地域の連携を図ります。

生活習慣や学習習慣等の課題について、必要な情報を積極的に公表し、学校・家庭・地域が連携・協力しながら改善に向かうよう努めます。

心のケアハウスや学び支援教室を設置し、様々な「学び」の形を支援します。

平成30年6月より、心のケアハウス（名称：Coco はうすかくだ）を、また、令和3年度より角田中学校に、令和8年度より北角田中学校に学び支援教室（名称：ほっとルーム）を開設し、児童生徒のニーズに合ったサポートを行い、児童生徒の学びを支援しています。

